

令和元年度 第1回あま市子ども・子育て会議 会議録

開催日時	令和元年8月1日(木) 午前10時から
開催場所	あま市役所 甚目寺庁舎 2階 第1会議室
議題	第2期子ども・子育て支援事業計画策定について
公開・非公開の別	公開
傍聴人の数	0人
出席委員	井村なを子、服部章平、大橋円昭、川原史子、渡邊泰江、吉田龍宏、竹腰真理子、堀江徹二郎、村瀬一生、吉鶴弥生、松田奈津美、加藤伸也、木下晶代、石川文代
欠席委員	小林直也、石村眞一郎
事務局	子育て支援課 樋口課長、林主幹、伊藤補佐

会長	<p>本日は、ご多忙のところ、令和元年度の第1回あま市子ども・子育て会議にご出席いただき、ありがとうございます。</p> <p>それでは事務局、よろしく願いいたします。</p>
事務局	<p>本日は、令和元年度の第1回あま市子ども・子育て会議にご出席いただきまして、ありがとうございます。本日の議題は、第2期子ども・子育て支援事業計画の策定についてご審議いただくということで、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>今回の会議は、あま市審議会等の会議の公開に関する要綱第3条に基づき、公開にて実施いたします。また、同要綱第7条に基づき、本会議終了後、会議録を作成いたしますので録音させていただき、市の公式ウェブサイトにて会議録を掲載することになっておりますので、ご承知おきください。</p> <p>本日、ご欠席の連絡をいただいている委員は、子ども会連絡協議会長の小林委員、校長会長の石村委員です。</p> <p>今回、委員の交代がありましたので、お手元の委員名簿の順にご紹介いたします。</p> <p>私立幼稚園代表の竹腰委員、小中学校PTA連絡協議会会長の村瀬委員、幼稚園保護者代表の松田委員、市職員として福祉部長の木下委員です。なお、本日ご欠席の小林委員と石村委員においても交代がありましたので、ご報告をいたします。</p> <p>また、本年度、事業計画策定業務の委託業者である株式会社名豊の担当者が、事務局として同席いたしますので、よろしく願いいたします。</p> <p>では、議題に入りますので、進行を会長にお願いいたします。</p>
会長	<p>それでは議題に入ります。第2期子ども・子育て支援事業計画策定について、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>(担当者より資料に基づき説明)</p>
会長	<p>何か、ご意見やご質問はありますか。</p> <p>第1期計画からの流れに、今回少し加えて、ということですね。</p>
事務局	<p>第1期の計画を基に、新制度が始まり5年目が経過しようとしています。そのような中で、各種施策や事業について、課題等も見えてきています。5年前には現状が分からない状態で計画を策定するという部分もありましたが、第2期は現状を踏まえつつ、また、新たにアンケート調査で分かってきたニーズ等も踏まえつつ、ご意見等も盛り込んで策定していきたいと考えております。</p>
会長	<p>実際の声を聞くということですね。国の方向性も示されてきています。今回初めての委員もおられますので、分からないところもあると思います。いかがですか。</p>

	<p>子育てには、やはり学校だけでなく地域のネットワーク、地域の見守りというものが重要だと思います。今回も、子育てネットワークづくりのことが入っていますが、多くの人の目があるということが大事だと思います。</p>
加藤委員	<p>「小1の壁」と言われますが、実際に私どもの会社でも、パート職員がこの時期には午前中勤務になったり、辞めなければならなくなったりします。今の小学1年生や低学年の壁を取り払うための施設を考えたときに、女性の就業率を80%までに上げられるような設備ができる予算を確保することはできますか。どの程度、真剣にお考えでしょうか。</p>
事務局	<p>平成27年度に策定した計画の中では、提供量がニーズ量を下回っている状況でしたが、毎年、学校の空き教室や公共施設等の空き部屋を拡充する等して、受け皿をどんどん増やしてきたという実績があります。ただ、これまで児童クラブは小学3年生までの利用でしたが、今回、小学6年生までに幅が広がり、ニーズ量が予想よりも増えました。そのような中、毎年拡充を続けて、現在は「小1の壁」はない状況です。ちょうど今は夏休み期間中で、通常利用していない高学年の子どもも、多くの申込みをいただいている中で、極力、クラブで受けていただいている状況です。若干名ですが、ご利用いただけていない方がおられることも事実です。</p>
加藤委員	<p>今は学校にもエアコンがついたので環境は大丈夫だと思いますが、環境の整備はどこまでなされるでしょうか。</p> <p>また、高学年と低学年を同時に預かるということですが、上手に進めば、1年生から6年生までが仲良くなって、その地域の子どもの縦のつながりが上手く育つかもかもしれませんが、逆に悪くなったときに、限られたスペースで、子どもたちが安心・安全に過ごせるのかという事もあると思います。児童クラブは、預けている人にしか情報は聞けないというところがあります。それほどオープンではないように思います。何をやっているのか、皆さんが知っている状況でしょうか。「ただ、預けるだけ」とか「その部屋から出られないよ」という声を聞きますが、見えているようで見えていないようにも思います。</p>
事務局	<p>1点目にご指摘の学校でのエアコン整備については、児童クラブとして空き教室を活用させていただいているところについては、子育て支援課にて先行してエアコン整備を進めました。そのような点で、快適にご利用いただける環境づくりには努めております。</p> <p>2点目にご指摘の学年の幅の広さについてですが、1年生と6年生がやることは全く違います。最近、地域の中でできていないと言われている縦のつながりができてくるのが理想なのですが、できているところもありますし、高学年の子どもが幼いことをやるのを嫌がる場合もあります。その部分は、クラブの支援員が、子どもたちを飽きさせることなく、うまく安全に進められるように工夫をしています。支援員に対しては研修等も実施して、支援員のレベルアップを図り、安心して預けられる環境を整えられるようにしています。</p>
加藤委員	<p>女性の就労率の80%を目指すということに対し、あま市がこれからできる努力が、支援のオープン化や広報という形で、「あま市は子育てを応援するまちです」と言うだけなのかと思います。ただやっているという事例は各地にあります。他市のように、「子育ての満足度が高い」と言われるまちになるために、あま市が今後、何をどこまで努力していくのでしょうか。国の政策や現在の政治的な流れの中で、やることをやるだけではなく、どこまで本気でやるのか、案をつくるにあたっての課題になると思います。</p>
事務局	<p>国でも女性の就労率の80%を目指し、そのためにご家庭でみられない受け皿とい</p>

	<p>うものを整備していくことも、市町村の役割だと考えております。具体的に市の施策として見えてこないということですが、そういったご意見をこの計画に盛り込んでいただけると考えております。ご協力の程よろしくお願いたします。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>加藤委員のご意見は、もつともだと思えます。担当部局はがんばっていますが、市のトップの姿勢は全く見えてきません。それは、財政に裏打ちされていないからです。マンパワーで動くことはやっていますが、お金を使って動くところが見えきませんので、やっているようには見えません。人のご厚意とボランティアの職員のボランティア精神によって、何とか耐えているような状況は、持続可能な子育て支援ではないと思えます。</p> <p>本日、一つご提案したいことがあります。次回の素案について、先ほど事務局から「量的確保の問題は肝」という話がありましたが、それはあくまでも量の問題だけです。大切なのは質的な問題だと思えます。それが、子育ての満足度につながる話だと思えます。</p> <p>例えば、これは次世代育成支援行動計画の目標でもありますので、保育にしても、放課後児童クラブに関しても、量的確保の問題は待機児童対策の問題だけです。では、この4つの基本目標について、子育て支援課だけでなく、全市各部署が「どのような施策、担当課、目標」を、以前の次世代育成行動計画の中で、目標ごとに網羅していただきたいと思えます。以前の次世代育成支援行動計画のときには、一覧表をつくり、担当部署、次世代行動を挙げ、5年間が終わったときには、「できた」「できない」を「○、◎、△、×」をつけ、評価できるようにしてありました。</p> <p>各項目について、例えば、ワークライフバランスをとるときも、市はどのような施策を打つのか、父親が子育てに参加しやすいような職場づくりのために、市はどのような施策を打つのか、どのようなサポートをしていくのか、ということです。</p> <p>奈良市では、父親のサークルを作って子育てをしやすくしている例もあります。職場に対し、そのような育児支援の補助を出すところもあります。いろいろな例があると思えます。もし、放課後児童クラブが一杯であれば、そこまで必要でない人が別の場所で、安全で安心して充実した生活を送れるような場所をつくることはできないか等、いろいろあるかと思えます。それらは、子育て支援課の枠を超え、例えば、安心安全課は子どもたちにどのようなことをしてくれるのかが、まったく見えてきません。ここに書いてあることは抽象的には全く賛成ですが、具体的には何も見えてこないもので、皆さんもご意見が言えないのだと思えます。できれば、この計画策定にあたり、今回は全部の事業を網羅していただきたいと思えます。項目として、5年後にどうなったかということを検証できるようにしないと、財政は動きません。「計画に書いてあるので、財源をください。」と予算要求することもできません。そうすることで、市の本気度合いが、委員にも市民にも分かると思えます。ぜひ、計画が完成するまでに、各項目を全部出し、皆さんからご意見をいただけるようにしていただきたいと思えます。</p> <p>また私も、4月には入学した新1年生の帰宅が早いため、休暇や早退する保育士が多く、保育士の配置にいつも苦労します。しかし、子ども保育する者は、4月に子どもに負担があるから、早く帰したいと言っても、帰らせてはもらえず、夜遅くまで預かるように言われます。学校側はどのように努力しますか。学校は、そのようなことは関係なく、早く帰すという意見でしょうか。それは、学校教育課の問題で、子育て支援課に回答を求めるわけではありませんが、そのようなところも含めて、全庁舎で検討すべきことだと思っています。それでも、まだ足りないと思えます。今の保育の状況を見ると、ますます就業率が上がり、8割になったら預かるころはありませ</p>

	<p>ん。そのような中で、どのように確保していくか、検討する必要はあると思います。そのための人材確保の施策も、市として行わなければ、おそらく 200%になる可能性があると思います。</p> <p>それでも、社会福祉施設や事業は、情報公開する義務がありますので、放課後児童クラブもできればホームページ等を開設し、活動の様子等の情報公開をするべきだと思います。そのようなことは、この計画に関わらず、意見として取り上げ、早めに対処していただけると、利用する保護者に分かりやすいと思います。利用者選択の時代ですので、それぞれの事業所でやるべきだと思います。</p>
事務局	<p>各項目については、第 1 期計画でも次世代育成支援計画の部分と重なりますが、個々の事業として挙げていますので、同様に考えております。</p> <p>2 つ目のご質問に関して、学校の態勢については、私どもではお答えできませんが、たぶん早く学校が終わり保育が必要な部分については、児童クラブがそのような役割を担っているのだと思います。</p> <p>児童クラブの情報公開についてですが、積極的に情報公開をしているところがあると思いますので、そうしたところを参考にして研究したいと考えています。</p>
吉田委員	<p>4 月のその部分だけとなると、なかなか受け入れてもらえない事例があることは事実です。</p>
事務局	<p>吉田委員から次世代育成支援の話がありましたので、追加の説明をさせていただきます。</p> <p>本日の会議資料の最後で、子ども・子育て会議の実施を 4 回予定していると説明させていただきましたが、子ども・子育て支援事業計画の中では、次世代支援行動計画と重複しているところがあります。その協議会を別に設けていますが、今回、ご出席している委員の多数の方が、この協議会の構成メンバーとなっております。スケジュールの第 3 回と第 4 回の子ども・子育て会議の前に、次世代育成支援対策地域協議会を開催することになると思います。関係する委員には、決まり次第、期日等をお伝えしますので、ご多忙の中誠に恐縮ですが、ご出席をよろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>それは、新しい会議ですか。</p>
事務局	<p>もともと、この子ども・子育て支援法ができる前に、次世代育成支援の計画がありました。その計画に則り、子育て支援事業等を進めていたのですが、新たに平成 27 年度から子ども・子育て支援法が施行され、重なる部分もありますが、新たにできた協議会ではございません。</p>
吉田委員	<p>本来別の計画で、それぞれ別に計画を立てるのですが、それだと自治体にとって負担になるので、一緒にしてもよいということになっています。ただ、法律は別ですので、それぞれ協議会を別々に設置しなければいけません。</p>
会長	<p>目的は同じということですね。</p>
川原委員	<p>ボランティアの役割はすごく大きいです。私どもがさせていただいている、ファミリーサポートの一番の課題は、ボランティア会員の確保です。おそらく、この子育て支援課の管轄の事業、例えば子どもの見守りのようなことも、ボランティアに頼っています。今後、どんどんとボランティアのなり手は少なくなってくると思います。そのような中で、地域の活動の担い手を育成していかないといけません。吉田委員がおっしゃったように、子育て支援課だけでなく、他の部署や社会福祉協議会の事業なども、連携してやっていかないといけないと思います。</p>
会長	<p>すべてが絡んでいると思います。</p>
事務局	<p>その部分については、各部署で計画を持っていると思いますので、そのような事業</p>

	とも連携しながら、この計画に反映していきたいと考えています。
会長	他にご意見等はございませんか。
加藤委員	意見を言うということではなく、方向性を、今の話でもボランティアが少なくなるという現状は、どのような意味で言われているのか、分かりますか。
事務局	そもそも労働力人口が減少してきており、ボランティアまで手が回らない状況が生まれてくるということだと思います。
加藤委員	今の高齢者の方は、ある程度年金ももらって、余力があるということで、体の動くうちはボランティアをしていただいています。しかし、5年後、10年後の高齢者は、正直に申し上げて、年金がもらえる年齢も上がり、まだ働かなければいけない状況で、ボランティアをしているような状況ではありません。ボランティアをしている余裕はないという時代になるわけです。そのようなことも視野に入れて考えると、子育てだけの問題ではなく、まちづくりとして、他の会議でもボランティアを育てようという形で、子どものうちから育てていくということですが、どちらかと言えば、ボランティアは年配の方に頼り切っている状況です。子育てでボランティアが絡んでいる以上は、ここからも発信して、子育てに関するボランティアも各部署に対しての育ち方を示していけば、あま市がどのようにまちづくりをしていくのかという、最終ゴール的なものも見えてくるはずです。この問題はここだけの問題ではないということで、各部署であったり、まちづくりであったり、協働であったり、ボランティアというものを取り組んではいるのですが、最終的にみんながつながってるところはあると思います。そのようなことを、この部署だけで考えるのではなく、部課長や所長、議員に幅広く、枠を超えた中で話をしていかなければ、何も変わらないと思います。
事務局	<p>当然、子育て支援課だけで完結するものだと考えておりません。いろいろな部署との連携は必要だと考えています。</p> <p>ボランティアといえば、今は高齢者の方が地域の見守り等の活動にご協力いただいているケースが多いですが、余談として、身近な話をさせていただきますと、昨日、甚目寺西児童館で児童館まつりがありましたが、その中で、そこを利用していた中学生数人が運営の手伝いに来ていました。このように、若いうちからボランティアに対する意識の醸成が図っていったらよいと思いました。そのようなことにも取り組んでいるということです。</p>
会長	ボランティアの方も高齢化のために減っています。私どももボランティアをしていますが、下の年代の方が続いてきません。共働き世代で、世代の差があります。私が介護ボランティアに行っても、以前、ボランティアをしていた方が介護を利用する立場になっていることもあります。「私は以前お手伝いをしていましたが、今は介護される身です。」と言われます。そのように、かなりの年齢の方がボランティアをしているということです。私も、「自分たちもいずれ介護を受ける側になる。」という会話をしました。1年1年が早く感じます。民生委員も75歳が定年ですが、定年されてもお元気な方はボランティアに参加しております。その方たちが介護を受けるようになる状態で、本当に心配な状況です。新しいボランティアを募っても、なかなか増えません。
事務局	ちょうどボランティアをしていただいている世代は団塊の世代の方が多く、今後、人口減少の時代に入っていく中で、ボランティアの担い手の育成は社会的な問題として、課題の一つだと思います。
竹腰委員	ボランティアとは、まったくの無償ですか。
事務局	一般的にボランティアというと、無償ボランティアを想像しがちですが、必ずしも

	無償とは限らず、有償ボランティアもあります。「ボランティア＝無償」ということではありません。
竹腰委員	若い頃から、という話がありました。私どもは私立幼稚園ですが、高校生に体験を兼ねて、学校経由で無償のボランティアに来ていただいています。大学生にも就職に結び付くということで、ボランティアの募集をかけていて、最初は交通費程度でやっていましたが、「あちらの園では、これだけお金がもらえる。」と言われるようになりました。ボランティアというものがよく分かりません。最低賃金は今、900円弱ですので、それで計算すると、8時から17時までだと、7,000円は出さなければいけません。ボランティアを集めるにも、どのようにしたらよいのか、よく分からない状況です。
事務局	ボランティアに来ていただく方にもよると思いますが、対価を求めて来ている方ばかりではないと思います。
川原委員	ファミリーサポートセンターだと、1時間200円での有償ボランティアで、利用者がお支払いするという仕組みです。
竹腰委員	ボランティアという名称だと、最低賃金を下回ってもよいということですか。
川原委員	はい。
吉田委員	やり方によりますが、先ほどの大学生の場合は、抵触する可能性があります。働いている内容にもよるので、一概には言えませんが、もし分からないようであれば、労働基準監督署に確認してください。
川原委員	今後、ボランティアを育成するということは大切だと思いますが、その一方ボランティアで賄えないものについては、きちんと予算をつけていただきたいと思います。例えば、現在、放課後子ども教室を利用させていただいておりますが、スタッフは有償のボランティアだと言われていました。
会長	放課後子ども教室の指導員は、有償で募集するということです。
川原委員	ボランティアがいて成り立っていく制度はたくさんあると思います。
会長	それは明記した方がよいと思います。募集の際には、明記していると思いますが。
川原委員	されていると思います。今後、ボランティアが減っていくということで、いくら有償であってもボランティアなしでは成り立たない事業が、そのままボランティアの育成ということで、そのまま継続していけるのか、あるいは、ボランティアでは難しいと判断して、きちんと予算をとり、人を雇うのかを考えなければいけません。
会長	スクールガードでも、老人会の方たちの力はすごいと思います。皆さん、無償でやっています。
川原委員	それは子育て支援課の管轄ではないと思います。そのようなものも見ていけたらよいと思います。
事務局	関係各課とも連携しながら、次世代の行動計画の中で個々の事業として網羅していきますので、今後お示ししたいと思います。よろしくお願いします。
会長	他にご意見等はございませんか。 今までのご意見を踏まえて、事務局にお願いしたいと思います。 それでは、以上で第1回あま市子ども・子育て会議を閉会いたします。ありがとうございました。